

学習塾・予備校・私立学校こそ大学受験後のフォロー・アップを!!
—受験教科以外の教科の指導こそ、本統の大学進学指導—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：現代の大学や専門学校の最大問題は何ですか。

A：(1)三つあります。一つ目は、高校時代に大学受験教科しか勉強しないため、「高校学習内容」を身に着けずに大学や専門学校に入学する高校生が多いことです。

(2)二つ目は、「学習習慣」が身に着いていないまま、年内入試で大学や専門学校に入学する高校生が多いことです。

(3)三つ目は、「学習の方法」を身に着けずに、大学や専門学校に入学する高校生が多いことです。

Q：大学入学までに、「高校学習内容」が身に着いていないとどうなりますか。

A：(1)大学は、2022年秋に大学設置基準が変更され、1回90分の授業について、4時間30分の予習・復習が課されます。

(2)授業では、アクティブラーニングがさかんに行われます。予め与えられた課題について、自分で「予習」し、自分の考えをまとめ、授業では意見発表・意見交換・ディスカッションを行い、思考を深める。授業が終わったら、「復習」として授業中のディスカッションを踏まえ、自分の考えを約1000文字のレポートにとりまとめ、毎回提出。

(3)従来の授業で行われていた「教科書」の「理解」は、「予習」や「復習」として、自分自身で行う。このために、1回90分の授業について、4時間30分は必要です。

Q：なかなか大学の授業に追いついていくのは大変そうですね。

A：(1)その通りです。大学の「教科書」や「教材」は、「高校内容」の「理解」と「定着」が前提となっていますが、「高校内容」の復習は含まれていません。いきなり、大学の内容に入ります。

(2)ですから、大学入試に出題されている教科しか学んでいない高校生は、大学の「教科書」や「教材」を十分に「理解」することが難しい。大学の「教科書」や「教材」を用いて大学の授業の「予習」や「復習」を一人で行うことは難しいといえます。

(3)「大学」だけでなく、高校卒業生の多くが進学する「専門学校」の授業内容も、「高校卒業レベル」からスタートします。ですから、「専門学校の前提となる関係教科」を高校で十分に「理解」し、「定着」していないと、専門学校の「教科書」や「教材」だけでなく、「授業」もよく「理解」できません。

Q：大学入学までに「学習習慣」が身に着いていないとどうなりますか。

A：(1)「大学」に進学する前に「学習習慣」を身に着けておかないと、大学で求められる1回90分の授業について、4時間30分の「予習・復習」など、夢のまた夢、実行不可能です。

(2)「専門学校」の先生方は、準備に準備を重ね「カリキュラム」を練り上げ、「最高レベルの授業」を行い、「専門学校」の学生全員に「プロフェッショナル」、「高度専門人材」としての知識・技能を身に着けてもらいたいと、毎回、真剣に授業をしてくださいます。また、精選され、学習効果に直結する「課題」も、毎回出してくださいます。

(3)「専門学校」こそ、1回の授業ごとに、「予習」「復習」をきちんと行い、「理解」「定着」を図り、単位認定のための「定期試験」を経て、資格試験、国家試験、採用試験への合格を目指さなければなりません。ですから、「自分から進んで学ぶ力」「主体的に学ぶ力」「学習習慣」更には、「長時間自己学習能力」を、専門学校入学までに身に着けることが求められます。

Q：大学入学までに「学習の方法」が身に着いていないとどうなりますか。

A：(1)大学や専門学校では、「予習の仕方」「授業への臨み方」「復習の仕方」「定着のさせ方」「応用力の着け方」「テストの受け方」「辞書の使い方」「新聞の読み方」「読書の仕方」「図書館の活用の仕方」「ノートの取り方」「ノート整理の仕方」など、「効果の上がる学習方法」は、余り熱心には教えてくれません。

(2)もちろん「レポートの書き方」や「調査・研究の仕方」「卒業論文」の指導はしてくださいます。

(3)しかし、小学校・中学校・高校で行うような、ていねいこの上ない「効果の上がる学習方法」の指導は余りしない、本人任せのようです。

Q：では、学習塾・予備校・私立学校では、何をどうすればよいと考えますか。

A：(1)学習塾・予備校・私立学校の「在籍」を高校3年生の3月31日までと考える。大学入学までに不足している「教科内容の学力」「学習習慣」「効果の上がる学習方法」を、3月31日まで徹底的に補う。

(2)これを、大学進学を目指す学習塾・予備校・私立学校が果たす最後の「役割」と考え、「最後の御奉仕」をする。

(3)大学・専門学校の進学者への「フィニッシング・スクール」としての役割を果たす。自分たちの可愛い教え子たちが、大学・専門学校に進学した後、「学力不足」「学習習慣の欠如」「効果の上がる学習方法を知らないこと」で困らないようにする。「単位を落とさない」「留年しない」「退学しない」ようにすることが肝要と考えます。

○入試が終わった次の日から、高3の3月31日まで、先生方の就業時間から、就業時間終了まで、先生方の目の前で「自学自習」させ、最後の御指導をすることで、先生方自身が自分から進んで「自らの使命を果たす」ことを期待申し上げます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も、僭越ではありますが、お読みいただければ、必ずご参考になると思われる本をご紹介します。

- (1)一冊目は、海老原峰子著「日本語教師として抜きん出る、あなたは初級日本語の『常識』が打ち破れますか」現代人文社 2020 年 9 月 5 日刊です。これから日本語教育を目指す先生方の基本テキスト。N5 指導時間の大幅短縮を可能にする「海老原メゾット」の入門書です。
- (2)二冊目は、ゲイリー・ハメル、ミケーレ・ザニーニ著「ヒューマノクラシー、『人』が中心の組織をつくる」英治出版 2023 年 12 月 6 日刊です。どんな小さな組織でも、一度手に入れた権力を手放さず、かたくなに新しい力を拒否する「ビューロ・クラシー(官僚主義)」が蔓延しがちです。どうしたらこの「官僚主義」から脱却し、「人」が中心の組織をつくることができるか。感動の一冊です。
- (3)三冊目は、堂目卓生著「アダム・スミス、『道徳感情論』と『国富論』の世界」中公新書、中央公論新社 2008 年 3 月 23 日刊です。2023 年はアダム・スミス生誕 300 年の記念すべき年でした。戦時経済にも似た様相を呈する昨今の世界をどのように考えたらよいか、堂目先生の本著は有益です。戸堂康之著「日本経済の底力―臥龍が目覚めるとき」中公新書、中央公論新社 2011 年 8 月 25 日刊は、東日本大震災直後、日本経済を元気づけるために書かれた名著です。今こそ元気を取り戻さねばなりません。是非、合わせてお読みください。
- (4)四冊目は、森田健司著「江戸暮らしの内側―快適で平和に生きる知恵」中公新書ラクレ、中央公論新社 2019 年 1 月 10 日刊です。第 4 章「庶民の教育と出版」の「寺子屋の教科書の内容」や「寺子屋で学ぶ子どもたちの日々」は興味が尽きません。森田先生は、石田梅岩の研究者でもあり、同著「石門心学と近代―思想史学からの近接」八千代出版 2012 年 12 月 11 日刊は、石田梅岩の主著「都鄙(とひ)問答」岩波文庫、岩波書店 1935 年 2 月 15 日刊を読むときに参考になります。
- (5)五冊目は、クリスティアーネ ハルツィヒ著、ディルク・ヘルダー著、ダナ・ガバッチャ著「移民の歴史」ちくま学芸文庫、筑摩書房 2023 年 12 月 10 日刊です。日本でも技能実習制度が廃止され、日本語能力検定試験 3 級合格などを条件に、家族帯同・期間無限定、一定年限後の転職自由など、外国人就業についての要件の大幅緩和が実現されようとしています。本書によって、広い見地から「移民の歴史」を「理解」することが大切と考えます。
- (6)六冊目は、中学校検定教科書「国語 1」「国語 2」「国語 3」、高校検定教科書「言語文化」「現代の国語」「古典 I」「古典 II」など、中学・高校の学校教科書を、社会人の教養として、通してお読みになることをおすすめします。
○中学国語、高校国語の各教科書のあちこちに揚げられている「おすすめ本」こそ、一生かけて読むに値する名著のリスト「人生の宝物」と確信します。是非、御挑戦ください。
- (7)七冊目は、「名指導書で読む 筑摩書房 なつかしの高校国語」ちくま学芸文庫、筑摩書房 2011 年 5 月 10 日刊です。「国語」とは、こんなに面白い教科なのかと舌を巻くほど面白い、先生方のための指導書です。自由自在に小学生・中学生・高校生に様々な教科を指導できる学習塾・予備校・私立学校の先生ほど素晴らしい仕事はないと痛感します。がんばりましょう！
○小学生・中学生・高校生を教える先生方にとって「読書教育」は避けて通れません。そこで

おすすめのなが、三木清著「読書と人生」新潮文庫、新潮社 1974 年 10 月 30 日刊、小泉信三著「読書論」岩波新書、岩波書店 1950 年 10 月 25 日刊、ウィリアム・サマセット・モーム著「読書案内—世界文学」岩波文庫、岩波書店 1997 年 10 月 16 日刊の 3 冊です。

○足利高校で 3 年間過ごした 50 名のクラスメイトの中から医学部進学者が 6 名出たのは、3 年間担当した現代国語の倉沢先生の「本は最後まで読む」「本は全集を読む」など「読書教育」の賜と考えます。「読書教育」こそ、受験指導の基本と考えます。

2024 年 2 月 7 日林明夫記